

令和 6 年10月現在

プロジェクトの詳細

開設 : 令和6年10月1日
対象面積 : 895㎡



共創エリア

前面ステージには大型モニターを採用し、海外との会議でもシームレスで高画質な画像を映し、共有を図ることができる。



受付 サインは、当施設の革新的なイメージを投影したプロジェクションサインを構築。エントランスから共創エリアにかけて、床面の貼り分けや天井仕上げにより、コンセプトにあるフィールドをイメージ。



共創エリア カフェスペース

カウンターテーブルは、イベント時に倉庫に格納できるよう、キャスター付きを採用。電源の場所を選ばず自由な活動が出来るよう、モバイルバッテリーを配置。



オカムラHPでも
ご覧いただけます

防衛装備庁は、令和6年10月「防衛イノベーション科学技術研究所」を恵比寿ガーデンプレイスタワー内に創設しました。これまでの装備研究所の取組とは異なる挑戦的なアプローチにより、民生の先端科学技術の装備品への取り込みを加速させ、防衛イノベーションに繋がる画期的な装備品等を生み出すために設立された組織であり、変化に柔軟に対応し革新的な技術を我が国の防衛に繋げることを役割としています。

新オフィスは、従来の官公庁のイメージを刷新し、自然を求める本能に配慮するバイオフィリックデザインを取り入れ、温かみがある配色や内装デザインにより、職員や来訪者が心地よく過ごせる空間が構築されています。また、この施設の特徴的なエリアとして、官民の連携や民間の先端研究者などとの交流を促す、共創エリアが設置されました。ソファ席やカフェスペースなどを配置し、カジュアルな雰囲気を出すことで、利用者の自然な交流を促し、自由闊達に議論し情報交換できる場となっています。また、利用者が効率かつ機能的に活動できるよう、遠隔でもシームレスで高精細な画像をタイムリーに共有できるAV機器やモバイルバッテリーなども整備されています。

このように、これまでになかったオープンイノベーションを促す環境を新設することにより、先端科学技術に携わる研究者を広く集め、人と情報が出会い・つながることで新しい価値を創出し、変化の早い様々な技術を効率的に融合させ、革新的な機能・装備に繋げることを目指しています。

官民連携のイノベーションハブ



執務エリア

チーム連携を維持しながら自由度のあるグループアドレスを導入。天板と椅子の配色に違いを持たせ、明るく活動的な執務席を構築。



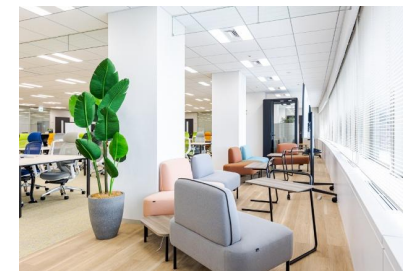
執務席

一人当たりW1050D600の机上面を利用し、脇机を廃止したワゴンレスの運用。天板下には、かばんフックを設置。



個人ロッカー

執務席はワゴンレスの運用とし、個人の書類・荷物はモバイルロッカーに収納。ロッカー上部に天板を加えることで、ミーティングや作業スペースとして活用。



窓側ソファ席

窓際の開放的な雰囲気の中で、モニターを利用した打合せが可能。サブテーブルを配置し、ソロワークスペースとしても活用。



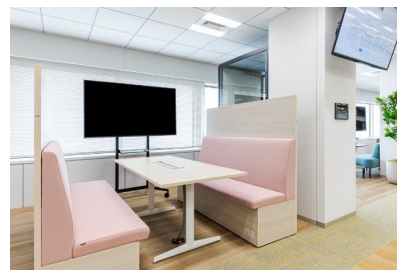
ワークブース

周囲の音を遮断し、個人集中できるフルクローズ型ワークブースを配置。WEB会議やソロワークに活用。



窓側ソファ席

窓面に面してゆったりとしたソファを配置し、ソロワークスペースや休憩スペースとして活用。



ファミレスブース

背面パネルを設けることで周囲の視線を遮り、こもり感をあKn辞させるセミクローズブース席。ソファ座面下には収納スペースがあり、防災備品などを格納できる。



窓側ソファ席(レストスペース)

通常はワークポイントとして利用するが、ソファの背もたれを倒し、フラットソファとしての利用も可能。



会議室

防衛省の陸上・海上・航空と宇宙のイメージに沿ったキーワードからカラーマテリアルを構成し、各室の内装・家具の色に反映。



所長室

従来の重厚な役員室のイメージを払しょくしたいとの要望により、ガラス間仕切りや明るい色合いの内装・家具を採用。